



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.49 2019.5

目次	
図書館と私 昭和～平成～令和	<巻頭言> 1
あなたの知らない医学部分館	<特集> 3
太宰治自筆ノート	<デジタル・アーカイブの紹介> 6
展示コーナー、見えますか！？	<図書館の話題> 8
読書は人生の羅針盤	<本との出会いを楽しむ> 10
Library News	11
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	12

図書館と私 昭和～平成～令和

理事（社会連携担当）・副学長 石川 隆洋



私は本が好きだ。幼い頃は文字だらけの本より絵柄の本が好きだった。次第に小説なども好んだが、図鑑や地図帳には及ばない。図鑑や地図帳を見ては思いを世界に巡らせた。ジャンルは問わず多読であったが、一番好きだったのは魚類図鑑だったと思う。朝から晩までまるで水族館にいるかのように図鑑を擦り切れるまで読んでいた。年長になるに従い、好奇心は高まるばかり。本をもっともっと読みたくなり、小学校の図書室に暇を見つけては入り浸った。図書室内はいつも凜とした空間があった。その時から、私は本に囲まれた静かな空間が大好きになった。昭和44年（1969）、小学校の図書室にあるテレビを囲み、米国のアポロ11号が史上初めて月面に着陸した映像を皆が固唾をのんで見守る中、月への第一歩が告げられた瞬間に歓声が上がったが、私はむしろ図書室内の静寂が破られたのを子供ながら残念に思ったものだ。

その後、弘前公園内にある弘前市立図書館にほぼ毎週のように通い始めた。市立図書館の閲覧室

は生徒向けと一般向けがあったが、静かに本を読まない子供が多い生徒向けから一日でも早く一般向けに行きたいと思うようになっていた。いつしか更なる図書館の空間を求めようようになって、高校生の時、恐る恐る弘前大学附属図書館を訪れた。高校の図書室は勿論、市立図書館とは比べようもなく、大学図書館は私を魅了した。当時は、一般の方は大学図書館を利用できなかったが、こっそり自習や蔵書の閲覧などを楽しんだ。それは高校生の私にとって至福の時であった。退去を求められたその時までは。時代をちょっと先取りしてしまったかもしれない。今では懐かしい思い出だ。

平成を迎えたのは弘前勤務の時だが、当時、弘前市立図書館は弘前公園内から弘前市下白銀町に新築移転（平成2年（1990））が決まり、ほとんど足を向けることはなくなっていた。何故だろう。昔ほどは本を読むことはなくなっていたし、立地条件が弘前公園内ではなくなったことも大きく影響しているかもしれない。その後、青森では青森県立図書館を利用した。県立図書館は、青森県庁

に隣接し、立地条件としては最適だった。また建物は大変趣があり、大講堂（ホール）を改装した一般・生徒閲覧室や円形階段など私の興味を引いた。しかし、その県立図書館も、私が弘前から青森に転勤した4年後の平成6年（1994）、青森市荒川に新築移転してしまった。勤務先からは遠くなり、その後ほとんど足を向けることはなくなった。県立図書館の移転構想を契機に、青森市内の利用可能な図書館を探索していた。平成5年（1993）、青森県庁西棟1階に青森県議会図書室が移転開設し、県議会開会中を除けば一般の方も利用できることから、青森勤務時代はもっぱら議会図書室を利用した。立地条件は申し分なく、また大変静かな環境の下で読書や資料検索そして瞑想できる空間をついに見つけたのだ。その後平成を終えるまで、議会図書室は私にとって大切な空間となり続けた。

また私は、弘前から青森までは電車通勤だったので、片道40分程度の時間を読書に充てていた。本は、平成13年（2001）に青森市松原から青森駅前の複合施設「アウガ」に移転してきた青森市立図書館を利用した。通勤時の私の読書空間は列車内であり、列車内という喧噪の中ではあるが私だけの空間の確保に努めた。座席確保ができなければ読書空間ができないことから、通勤者の多くが利用する時間帯の1 or 2本前の列車に乗車するよう心掛けた。早起きの習慣はここで培われたものだ。

当時は仕事以外の様々なジャンルの本を、まるで子供の頃に戻ったように読みふけていたように思う。ただ、残念なことは、通勤し始めの頃は多くの人が列車内で本か新聞を読んでいたのに、パソコンやスマホが台頭してきて、次第に本や新聞を読む人は少数派になってきたことだ。先日も弘前から青森までの電車移動の間、本を読んでいたのは私だけで、老いも若きもスマホをいじっていた。列車内の静寂さは保たれているとはいえ、空しくなるのは私だけだろうか。

確かに、今の時代、パソコンやスマホがあればほとんど足りる便利な世の中になったとは思いますが、私としては、沢山の蔵書に囲まれ、温度管理がなされた静かな環境で、本を読んだり、空間を楽しんだりするのが好きなのだ。それを満たしているのが図書館。だから私は図書館が好きなのだ。今も、時折、弘前大学附属図書館の資料室の中に身をおいて、考えを巡らせることがある。凜とした雰囲気は実に小気味よい。図書館の利活用に対する考え方は人それぞれ。むしろ自分の考えを押し付けようとは思わない。時代は平成から令和へと変わり、巷ではお祭り騒ぎの体だが、私はこれからも図書館を利用する。今度はどんな出会いがあるだろうか。埋もれた資料の中から何が発見できるだろうか。はたまた新着本からどんな知識を得ることができるだろうか。ワクワクしてくる。明日が楽しみだ。

（いしかわ たかひろ）

～著者のプロフィール～

石川 隆洋（いしかわたかひろ）

弘前大学理事（社会連携担当）・副学長

昭和55年4月青森県採用、青森県観光交流推進課長、青森県観光国際戦略局参事、青森県観光国際戦略局理事、青森県立美術館副館長事務取扱などを歴任し、平成30年4月より現職

特集 あなたの知らない医学部分館

～分館職員とめぐる誌上館内ツアー～

文京町キャンパスに通学する多くの学生さんにとって、未知の場所。どこにあるのかもよくわからない…今回はそんな医学部分館をご紹介します。これで敷居も低くなって、気軽に利用できるように…なるといいですね！ここで働く分館職員ならではのちょっとした小噺もあります。さあ、一緒に館内ツアーに出かけましょう。

医学部分館は、医学研究科基礎校舎の中にあります。（基礎校舎は、附属病院の脇の道をまっすぐ進んだ突当りの建物です。）図書館として独立した建物にはなっていないので、ちょっと分かりにくいです。基礎校舎の玄関から入って、左側に進んでいくと、右折した廊下に医学部図書館と書かれた札が下がっています。廊下に面した出入口の自動ドアのボタンを押して入ります。外と接していないので、冬でも比較的冷気が吹き込まないのは、ありがたいですね。



出入口から入るとすぐに、カウンターがあります。貸出返却、利用案内、お問い合わせなど、こちらへどうぞ。貸出条件は本館とは多少違います。学部学生と大学院生は5冊まで貸出可で期間は7日間、教員は10冊まで貸出可で14日間です。自動貸出返却装置はないので、すべてカウンターで処理します。

1階には通常の閲覧席のほか、PC用の電源が使える席も8席設けています。新着雑誌もこのフロアに置かれています。



新聞コーナーです。東奥日報、陸奥新報、朝日新聞、読売新聞の4紙を購読しています。ふらっと来ては新聞を読んで去っていく人もいれば、勉強中の息抜きに来る人もいます。ここで長時間勉強されると、そういった方が利用しづらくなるので、勉強は他の閲覧席でお願いします。



1階にある大きな展示ケース中には、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「解剖手稿」という資料が展示されています。1982年に岩波書店から350部限定で発行されたもので、本学の所蔵資料にはNo. 177というシリアル番号が付されています。「解剖手稿」の本物はイギリスのウィンザー城王立図書館で所蔵していますが、その複製版で翻刻・解説などが掲載されており、皆さんも気軽に内容を読むことができます。実はこれ、分館職員が2、3日ごとに1ページずつめくっていますが、

ページを見ていると面白いことに気がきます。解剖図だけでなく大聖堂を思わせる建築画や自画像のようなもの、何かの走り書きなどが残されているのです。毎日見ていたら、何か素敵な発見があるかもしれませんね。



1階出入口の真向かいにあるドアを開けると、2階と地下へつながる階段があります。実は、1階の出入口から入り、他のフロアの存在に気づかず、「図書がほとんどない、狭い図書館なんだな」と思うのか、すぐに出て行く方が結構いらっしゃいます。2階の存在をアピールするため、ドアに案内をつけてみましたが、それでも気づかない方は気づかないようです。

2階は図書のフロアになっています。医学部分館の図書のうち、約9割が医学関係です。そのため、2階フロアの図書は医学系とそれ以外という区分で、コーナー分けされています。医学科は全員が同じ授業を履修するため、同じ図書に利用が集中することが多いので、利用が多い図書は何冊も購入しています。このあたりも、本館と違うところです。分館の図書は本館の図書より貸出期間が短いのですが、これも利用が集中するため、あえて短くしています。



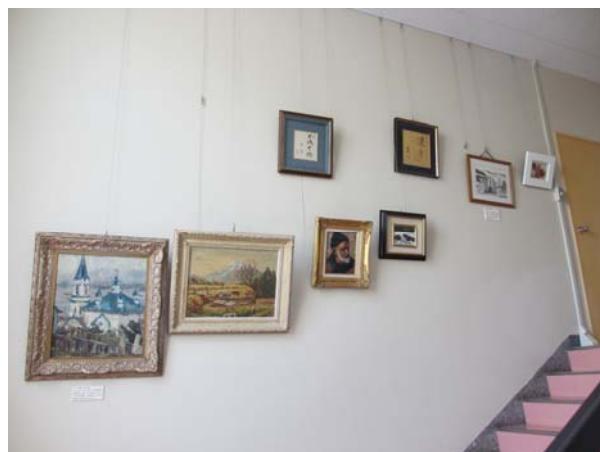
2階には閲覧席も多く配置されています。自修室という、壁で囲まれた閲覧席もあります。授業に使うわけでも、グループ学習するわけでもないのに、なぜ囲まれているのでしょうか。これにも経緯があります。

以前は、この自修室は24時間利用可能なスペースでした。閉館中でも、現在は閉鎖されている廊下側の出入口から出入りして、自習に使うことができました。(その際、図書館側の出入口は施錠されていました。)しかし、建物内に他にも24時間利用可能なスペースができたことから、この部屋は完全に図書館の一部として扱うこととし、廊下側からは出入りできないようになりました。

フロアに隣接した書庫です。書庫は5層に分かれており、1層、3層、5層が、各フロアと連結されています。この5層の図書・雑誌の一部は、以前は保健学科分室にあったものです。保健学科分室が医学部分館と統合し、閉室となった際、移動してきました。2階フロアの図書が医学科用、書庫5層の図書が保健学科用といった区分になっていますが、所属にかかわらず、どちらの図書も同じ条件で借りることができます。書庫の1層～4層は洋雑誌が置かれています。和雑誌は地下フロアと1階フロアに置かれています。



閲覧室の壁や階段の壁には、多くの絵画や版画、色紙などが飾られています。その多くは絵画を嗜んでいる教職員の方々にお願ひし、寄贈してもらったものだそうです。風景画が多いですね。そのうち十数点については、昔の医学部ウォーカーで由来が紹介されています。該当する絵画等については、記事を要約したキャプションをつけています。



ここまで分館について簡単にご紹介してきました。直接来館されて利用することもできますし、本館経由で分館の図書を取寄せて借りることもできます。OPAC検索結果からMyLibraryにログインして申し込むか、またはカウンターにてお申し出ください。分館の雑誌は取寄せできませんが、他の大学図書館に依頼するのと同様に、有料で文献複写の依頼をすることもできます。

なお、文京キャンパスから直接来られるようなバス路線は残念ながらありません。一般の方用の駐車場もないので、もし車で来られる場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。駐輪場はありますよ。

(さいとう かおり)

デジタル・アーカイブの紹介

「太宰治自筆ノート」について

医学情報グループ係長 齋藤 香織

【太宰自筆ノートの来歴】

2009年9月、小野正文（おの まさふみ）氏のご子息である小野正俊氏より、太宰治自筆ノートが本学に寄贈されました。ノートは2冊あり、1年次の英語と2年次の修身です。

小野正文氏は著名な郷土文学研究家で、太宰にとっては高等学校と帝国大学の先輩にあたり、太宰に関しても多数の著書を執筆しています。ノートはもともと正文氏が所持していたものですが、正文氏が死去後、正俊氏の意向により、弘前大学へ寄贈されました。本学へ寄贈される以前には青森県立文学館に寄託されており、県立文学館ではノートを写真撮影したものを資料集として刊行しています。

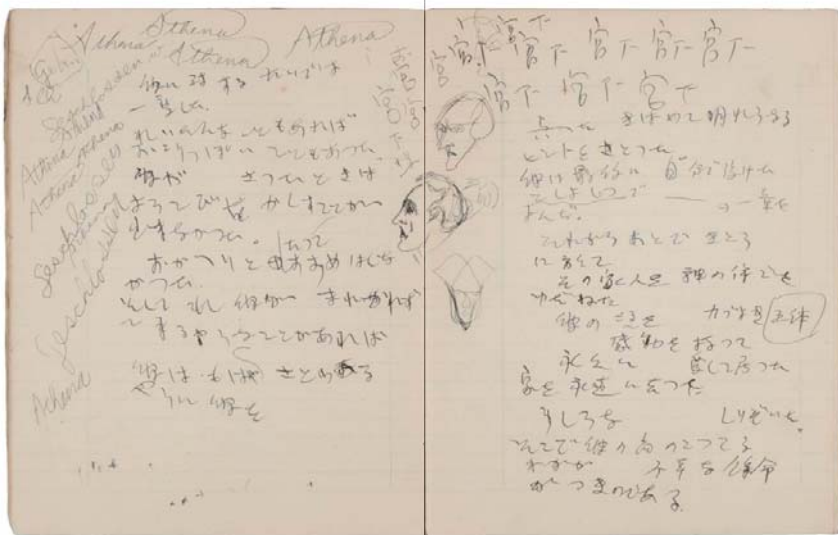
なお、太宰の自筆ノートは他にも存在しており、2013年に中学校・高等学校時代のノート、日記など22点が日本近代文学館に寄贈されています。こちらは太宰の実兄津島文治氏が保管していたものとのことです。いずれも太宰の直筆によるもので、1冊1冊が世界に1点しかない貴重な資料です。

【ノートの内容】

英語のノートは、表紙に弘前高校の校章が刷り込まれ、裏表紙に「今泉本店特製」との表記が見えることから、弘前高等学校の生徒用に作成されたものと思われます。今泉本店は、古くから弘前市の中心部にあった書店で、2000年に閉店しました。

ノートには、英文学作品の日本語訳が記されており、第1年次の英語で「読方読解」の授業のものと思われると推測されます。安藤宏氏の分析によると、教員が読み上げる訳文を口述筆記したものらしく、書き留めるのが間に合わなかったのか意味不明な文言が多々あるとのこと。

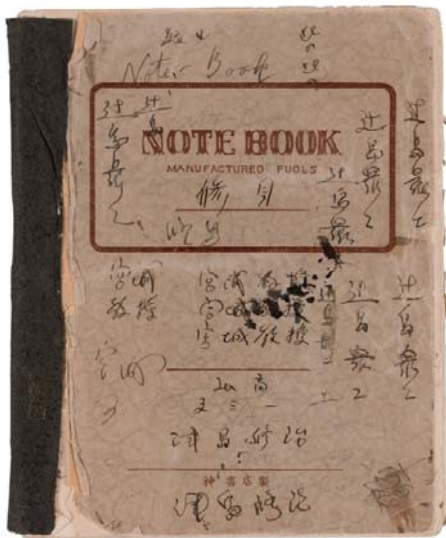
ノートは途中まで記された後、最後から天地逆に再び使用されています。多くの落書きがあり、人物の顔、英単語、英語・日本語による自己の署名などが見られます。文字は殴り書き



英語ノート 64-65 ページ

で読みづらいですが、慣れるとそれなりに読めてきます。なお、当館ではノート2冊の翻刻も刊行しています。

英語のノートには天地逆のページがあるため、デジタル化するにあたり、上下反転できる機能をつけました。ノートは見開きの状態で表示され、ページをめくる感覚で読むことができます。



修身ノート表紙

修身のノートは、今泉本店製ではなく「神書店製」と表記されています。内容は、「吾人ノ国家観及び吾国体」「国家ト個人ナラビニ愛国心」など4章から構成されています。ノートは38ページまで使用されており、あとは白紙で、終わりの部分に7ページにわたる落書きがあります。

英語同様、講義を口述筆記したものと思われませんが、英語のノートが漢字とひらがな表記だったのに対し、修身のノートは漢字とカタカナ表記で書かれています。このノートにも多くの落書きがあり、教員に見られたときのため表紙くらいは綺麗にしておいたほうがいいのではと心配になります。人物画、本名の津島修治、ペンネームの一つである辻島衆二、「細胞文芸（太宰が弘前高等学校時代に発行した同人誌）」の文字、英単語などが見られます。表紙には担当した教員名と思われる「宮城教授」という文字も見えます。

【ノートについての研究など】

平成22年度と23年度の2年間、この2冊のノートに関する研究プロジェクトが生まれ、人文学部と教育学部の教員、および外部有識者が参加しました。太宰が鑑賞したと推測される映画と上映していた映画館、当時の官立高等学校の教育制度、ノートに記述された講義の内容、落書きの人物画に描かれたモデル等について、それぞれが調査研究を行いました。その成果として、報告集2冊を刊行し、当館でも所蔵しています。

なお、弘前大学出版会ではこの2冊のノートの複製品を作成し、大学生協を通じて販売も行っています。製本・紙質の違いもあり、実物に比べると分厚いですが、実物のノートで取れているページまで、取れた状態で再現しています。当館にも寄贈されており、貸出もできますので、興味のある方は手にとってみてはいかがでしょうか。



修身ノート終わり部分の落書き

(さいとう かおり)

参考資料

- ・「平成22年度太宰治自筆ノート研究プロジェクト成果報告集」
太宰治自筆ノート研究プロジェクト[編]、弘前大学、2011年
- ・「平成23年度太宰治自筆ノート研究プロジェクト成果報告集」弘前大学
太宰治自筆ノート研究プロジェクト[編]、弘前大学、2012年
- ・「解説 太宰治の旧制高校時代のノートについて」安藤宏著、
『資料集第五輯 太宰治・旧制高校時代ノート「英語」「修身」』、青森県近代文学館、
2008年、p.142-149
- ・「翻刻 太宰治自筆ノート [英語：修身]」弘前大学附属図書館編、2012年

図書館に関する話題 第22回

展示コーナー、見てますか！？

情報サービスグループ係長 長谷川 友紀

◆新着図書展示コーナー

図書館に入ってカウンターの前を通り過ぎると見えてくる展示架。ここでまず足を止めていただきたい。1階には新着図書を展示していますが、何となく眺めているだけで、ふと目に留まり、読んでみようかな？と思う本があるはず。表紙のカバーが「手に取って」と言ってますか！？

図書館に来て、大学図書館の本って何で表紙のカバーを外してしまうんだらう？と思ったことはありませんか？（カバーを外してしまうのは決して当館だけではないはず・・・）カバーを外すと味気ない表紙になってしまいますよね。表紙カバーに惹かれて本を手にとること、ありますよね？その思いから、せめて新しく入ってきた本はカバーをつけたまま展示したいということで、1階に新着図書展示コーナーができました。

当館では、全国紙の新聞書評欄で紹介された図書や、各学部の教員から推薦された図書を購入していて、次から次へと新しい本が入ってくるので、ある程度時間が経ったものは（2～3ヶ月後）カバーを外して2階の開架図書へ移動します。「以前ここにあった本、どこにいったんですか？」と聞かれることがありますが、目当ての本がないな～と思ったら、OPACで検索して所在を確認してください。場所が移動していることがあります。

「新着図書って借りられますか？」と聞かれることもありますが、もちろん、借りることができます！その際はカバーを外して貸出手続きしてくださいね。



1F 新着図書展示コーナー

◆企画展示コーナー

階段を上ると2階にも展示架があります。ここは企画展示コーナーといって、新着図書ではなく、イベントに連動した展示を行っています。図書館のイベントであるPOPコンテストやブックハンティングの他、学内で開催される学術講演会に関連した展示も行っています。例えば、京都大学総長 山極壽一氏 学術講演会（2017年5月11日）、ノーベル化学賞受賞 白川英樹氏 学術講演会（2017年10月18日）、ノーベル物理学賞受賞 天野浩氏 学術講演会（2018年10月18日）に関連した展示を、講演会の日程に合わせて行いました。ご本人の著書が少ない場合は（自然科学分野の研究者は、雑誌への論文投稿がメインで、本はあまり出していないという方も多いので）、講演会のテーマに関連した本を集めてきて展示します。展示によって、こういう講演会を開催しますよと宣伝するとともに、講演を聴く前の予備知識として本を読んでおこうとか、講演を聴いて興味を持ったから本を読んでみようとか、

講演会に参加された方にも好評です。昨年はノーベル生理学・医学賞を本庶佑氏が受賞されたことを記念して、歴代のノーベル賞日本人受賞者の著作を集めた展示も行いました。



ノーベル賞日本人受賞者



山極壽一氏 学術講演会



留学ライブラリー

また、弘前大学留学ウィーク（2018年5月・11月）の一環として、留学ライブラリーの展示を行いました。これは留学関連の写真やコメント、パンフレット等を展示し、留学をオススメするものです。この他にも、英語多読本の展示や、図書館職員が選んだイチオシ本の展示など、多彩な展示を行っています。

この2階の企画展示コーナーでは、書庫の本を集めてきて展示することも多いのですが（そのため表紙カバーが無いものが多い）、普段は書庫の中に埋もれている本でも、展示コーナーに置くことによって、多くの人の目に触れて、借りられていくところが面白いです。POPと一緒に本を展示している時は、その棚が指定席

となりますので、その本が借りられた場合は「貸出中です」という札を置いています。こ

この札が多くなると「たくさん借りられてるな～」と嬉しくなります。（実はこの札、カウンター職員の似顔絵になっていること、気付いてました！）



貸出中の札

展示に力を入れることにより、貸出状況も良好で、貸出冊数は前年度比 2.3%増と、増加傾向にあります。大学生の「読書時間ゼロ」が半数超えといった調査もありますので、息抜きのための読書でも良いので、ぜひ展示コーナーをご覧ください。たまたま手にしたその本が、あなたに大きな影響を与えるかもしれませんよ。

(はせがわ ゆき)

本との出会いを楽しむ 第22回

読書は人生の羅針盤

サンライズ産業株式会社取締役相談役 行政書士 尾崎 善造



自宅の本棚の奥に忘れさられたように積まれた学生時代からの本があります。乱読した岩波新書の塊で「学生に与ふる書」から溪流釣りにハマリ「イワナの謎を追う」、「クマに会ったらどうするか」まで、新刊書が発行されるたびに、ジャンルに拘らず読破しようと意気込んでいた頃の残骸です。当時知識欲は旺盛でしたが体系的には読み込んでいなかったことの証です。ただ、これまで好き勝手に読んだことで、読書の楽しみを知りました。

中学時代は、「狭き門」、「車輪の下」、「路傍の石」、「あすなる物語」などに感動したものでした。これらの本を友人に譲り渡した時の笑顔が今でも思い出します。大学生時代(昭和41年代)は「考えるヒント」、「想像力の問題」(サルトル全集12巻)、「甘えの構造」、「春宵十話」、特に「釣魚大全」アイザック・ウォルトン著は古典的な名著で、釣りのマナーのみならず金言集でもあり、是非お勧めしたい一冊です。とりわけ法哲学の「法の究極に在るもの」尾高朝雄著は極めて示唆に富む名著でした。

社会人になってからは、ノンフィクションや歴

史を舞台にした吉村昭著に凝り、「破獄」、「磔」、「三陸海岸大津波」などの外、司馬遼太郎著の「街道をゆく」の全巻を読み、「十津川街道」ではその歴史的な背景に興奮しました。とりわけ「北のまほろば」では、弘前公園の天守閣は岩木山と言われしめ、その表現に感心したものです。また、「オランダ紀行」では、大学同級生の後藤猛君がオランダ博士として登場していることを知り驚きました。

かつて、数年間国家資格試験の受験浪人後、地方公務員となり、弘前市立図書館の図書購入責任者として、年間数百冊の書籍を十進分類法に基づく分類のために読み込み、教養書の深淵を垣間見た気がしました。専門分野を問わず多くの分野の世界に入ることが、人生の転機を迎えた時の選択と決断に繋げるのが本の力ではないかと思います。

良書、悪書と言われる書籍を思いのまま読み進めることが人生の糧になるのではないのでしょうか。ちなみに若い頃伝記「平生鈔三郎伝」にある「人生三分論」に心酔したひとりでもあります。最近「石田三成と津軽の末裔」佐賀郁郎著(旧制弘前高校卒業)をドキドキしながら読みました。

参考 拙著「地方議会の12か月」学陽書房
(おざき ぜんぞう)

弘前大学附属図書館で所蔵している関連図書

- ・「破獄」吉村昭著 本館和図書(書庫) 999||Z9||Yo ID: 20000738 他にも著書所蔵有。
- ・「想像力の問題」サルトル著(「サルトル全集」12) 本館和図書(書庫) 950||63||16
- ・「法の窮極に在るもの」尾高朝雄著 本館和図書(書庫) 321.1||017 ID: 00057040
- ・「北のまほろば」司馬遼太郎著 本館開架図書 915.6||Sh15 ID: 06736962 分館も別版有
- ・「石田三成と津軽の末裔」佐賀郁郎著 本館開架図書 288.2||Sa15 ID: 06770874
- ・「地方議会の12か月」尾崎善造著 本館開架図書 318.4||096 ID: 08240480

附属図書館ではサンライズ産業(株)様からのご寄付により、地域を対象とした課題解決や地域のリーダー育成に役立つ資料として様々な図書・雑誌を整備しています。サンライズ産業(株)様の寄付図書・雑誌は本館2階に配架していますので、ぜひご利用ください。

Library News

医学部分館 春季休業期長期貸出を試行

医学部分館では、2019年2月2日（土）より、試行として春季休業期の長期貸出を行いました。（夏季休業期と冬季休業期は、以前より長期貸出を行っています。）なお、本館では、2015年度末に試行として行い、2016年4月に春季休業期も長期貸出に含めるよう規則を改訂しました。

本館で3年間実施して、特に大きな問題も発生していませんでしたので、医学部分館でも実施を検討することにしました。試行にあたり、Twitterでアンケートを取ったところ、回答は80件で、「春季も長期貸出したほうが良い」が68%、「しない方がよい」が10%、「どちらでもよい」が22%でした。賛成票が多数でしたので、試行に踏み切りました。

運用の結果ですが、2～3月の貸出冊数が前年度に比べ16.3%増加、特に3月は前年度比51.7%増加となっており、高い効果があったと言えます。また、実施後の4月にも、今後どうするかについて、Twitterでアンケートを取りました。回答数は41件で、「今後も行ってほしい」が78%、「行わないでほしい」が10%、「どちらでもよい」が12%でした。大きな問題もなく、好評だったようですので、以降も実施する方向で考えています。

実は2019年度の利用案内では、本館が「休業期の長期貸出」と記載しているのに対して、分館は「夏季・冬季休業貸出」としています。利用案内作成時点では、次年度以降も春季休業期の長期貸出を続けるかどうか、未定だったためです。

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成30年10月～平成31年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	数	所蔵先
人文社会 科学部	尾崎名津子	〈異〉なる関西	田畑書店	1	本館1
	関根達人	若狭小浜湊の中近世石造物 (石造物研究に基づく新たな中近世史の構築3)	関根達人	1	本館1
	佐藤和之	地震のことばを知ろう！「やさしい日本語」 で学ぶ100のことば	弘前大学人文社会 科学部社会言 語学研究室	1	本館1
		災害が起こったときに外国人を助けるため のマニュアル 増補版	弘前大学人文社会 科学部社会言 語学研究室	1	本館1
		災害時における学校や自治体からのお知らせ編 (さくさく作成！「やさしい日本語」 を使った緊急連絡のための案文集)	弘前大学人文社会 科学部社会言 語学研究室	1	本館1
		災害時におけるスマートフォンでの連絡編 (さくさく作成！「やさしい日本語」を使っ た緊急連絡のための案文集2)	弘前大学人文社会 科学部社会言 語学研究室	1	本館1

人文社会 科学部	佐藤和之	生活情報誌作成のための「やさしい日本語」 用字用語辞典 自治体・外国人支援団体向 け「やさしい日本語」 カテゴリーII 改訂版	弘前大学人文社 会科学部社会言 語学研究室	1	本館 1
		生活情報誌作成のための「やさしい日本語」 ガイドライン 街の外国人に生活情報を伝 えるために・カテゴリーII	弘前大学人文社 会科学部社会言 語学研究室	1	本館 1
		「やさしい日本語」で表現するカタカナ外 来語・アルファベット単位記号用語辞典(カ テゴリーI 対応)	弘前大学人文社 会科学部社会言 語学研究室	1	本館 1
医学研究科	今泉忠淳	酒蔵 50 景(第 3 集) : 写真集	水星舎	1	本館 1
		酒蔵 50 景(正) : 写真集	水星舎	1	分館 1
	石橋恭之	整形外科日常診療のエッセンス(下肢)	メジカルビュー社	1	分館 1
理工学研究 科	中里博	Matrix Topics and Numerical Range	Yoshioka Shoten	1	本館 1
農学生命 科学部	金児雄	カイコの実験単	エヌ・ティー・エ ス	1	本館 1
弘前大学 名誉教授	中村光男	膵外分泌不全診療マニュアル : 膵性消化 吸収不良と膵性糖尿病の診断と治療	診断と治療社	2	本館 1 分館 1
	松木明知	日本の麻酔科学の歩み : 200 年の軌跡	真興交易(株)医 書出版部	2	本館 1 分館 1
		And she felt no pain : a Japanese doctor, his herbal invention, and the first general anesthesia in recorded history	R. E. Brodeur Printing and Talin Bookbindery	1	分館 1
	豊川好司	岩木山を科学する 3	北方新社	1	分館 1
元教員	JN.	Stierensumo	Bananafish	1	本館 1
	Westerhoven	Het jachtgeweer	Bananafish	1	本館 1
弘前大学医 学部鵬桜会	五十嵐勝朗	微笑みのバトン	ポリッシュ・ワ ーク	1	分館 1
	神田進	心の仕組みを解明する脳内ディスプレイ : まったく新しい理論脳科学	デーリー東北新 聞社出版部	1	分館 1
	永山隆造	低周波針通電運動療法による片麻痺の治療	予防医療臨床研 究会	1	分館 1
弘前大学出版会		ポスト地方創生	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		どう見える? : 生きる跡アート	弘前大学出版会	1	本館 1



弘前大学附属図書館報「豊泉」第 49 号 発行日：令和 元年 5 月 31 日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会
発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1
TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治 9 年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」(三省堂)より